

平成 18 年 11 月 15 日

各 位

会 社 名 アルゼ株式会社  
 代表者名 代表取締役兼最高経営責任者（CEO）  
 余語 邦彦  
 （JASDAQ・コード 6425）  
 問合せ先 執行役員管理本部長代行 岡本 徹  
 電話番号 03-5530-3055(代表)

平成 19 年 3 月期中間・通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成18年5月24日付「平成18年3月期 決算短信（連結）」にて発表いたしました平成19年3月期中間期及び通期業績予想（連結・個別）を下記の通り修正しますのでお知らせいたします。

記

1. 平成 19 年 3 月期中間期の業績予想（平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日）

(1) 連結

(単位：百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前回予想 (A)	34,300	2,100	800
今回修正 (B)	17,420	△3,300	△5,200
増減額 (B-A)	△16,880	△5,400	△6,000
増 減 率 (%)	△49.2%	-%	-%
(ご参考) 前年度実績 (平成 17 年 9 月期)	21,770	△6,678	△8,413

(2) 個別

(単位：百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前回予想 (A)	32,000	3,100	1,800
今回修正 (B)	15,340	△1,500	△3,100
増減額 (B-A)	△16,660	△4,600	△4,900
増 減 率 (%)	△52.1%	-%	-%
(ご参考) 前年度実績 (平成 17 年 9 月期)	11,273	△4,969	△9,153

(3) 中間期業績予想修正の理由

(個別)

<ご参考> 業績への影響額 (個別)

(単位: 百万円)

	売上高	売上原価	売上総利益	営業利益
当社の考え方による会計処理 (A)	18,682	9,340	9,342	692
監査法人指摘による会計処理 (B)	15,340	8,100	7,240	△1,410
差額 (A-B)	3,342	1,240	2,102	2,102

平成 18 年 8 月 24 日付「平成 19 年 3 月期 第 1 四半期財務・業績の概況 (連結)」を発表した時点では、当第 2 四半期以降におけるパチスロ機市場で、旧基準 4 号機の発売タイトルがほぼ出尽くしたことにより、新基準 5 号機への入替が本格化してくるかと考えておりましたが、本年 9 月末の段階では依然として入替台数の大半を旧基準 4 号機が占め、5 号機は少台数の導入にとどまりました。この結果、売上金額が前回予想を大幅に下回りました。尚、累計レンタル設置台数は約 5 万台となっております。

当社はパチスロ市場が 4 号機から 5 号機へシフトしていく中、お客様の経営コスト削減に大きく寄与することが可能なレンタルシステムを構築し、前年度末の特別キャンペーン期間を経て今年度より本格的に業務を開始しました。

レンタルシステムの契約期間は 2 年間で、パチスロ筐体はレンタルし、ソフトについては納入時の販売に加え、適宜入れ替えの販売をしております。また、本年 9 月末までの契約分に関しては、1 年経過時にサービスパチスロソフトを一本交換できる仕組みになっておりました。当社はこの画期的なビジネスモデルの中、ソフトの会計処理については筐体納入時に回収総金額を当期の売上に計上し、1 年経過時に交換するサービスパチスロソフトの費用として 5 万円を当期に引当処理することがより適切であると考えておりました。これに対する監査法人の見解は、契約から 1 年後にサービスパチスロソフトが一本提供されるため、そのソフト評価額を 10 万円 (当社主張額は 5 万円) とみなして、ソフトに関しては 2 事業年度に分けて売上計上するというものでした。

更に当社は前期末より機械販売から、筐体レンタルとソフト販売という営業形態の大幅な変更を行いました。そのことにより、売上の大半がソフト及びサービス事業主体となりました。この業態に伴い売上基準を納品のみから、契約と集金を行い、最も適切な帳簿管理と、売上において税法との合致性が高い会計を行うことが正しいものと考え、当社の考え方による会計処理 (上表 (A) 参照) を行いました。

しかしながら、当社は監査法人と協議した結果、売上高は 3,342 百万円、売上総利益が 2,102 百万円減少いたしました。これらの結果、営業段階では 1,410 百万円のマイナスとなっております。

更に、平成 18 年 11 月 9 日付け「訴訟の判決に関するお知らせ」にて開示しておりますとおり、訴訟に関する損失約 14 億円等の特別損失の計上もあり、上記の通り中間期業績予想の修正を行うことといたしました。

(連結)

連結の中間期業績予想につきましても、個別の修正理由に基づき、売上高、経常利益および中間純利益について業績予想の修正を行うことといたしました。

尚、当社が 24.5%の株式を保有する持分法適用関連会社であるウィン・リゾート社(NASDAQ : WYNN)は平成 18 年 3 月 5 日、パブリッシング・アンド・ブロードキャスティング社 (以下「PBL 社」という)へマカオ特別行政区における営業権サブライセンスを、9 億米ドル(約 1,000 億円)にて売却する合意書にサインしたことを発表いたしました。その後、平成 18 年 9 月 11 日にウィン・リゾート社の子会社、ウィン・リゾート (マカオ) が PBL 社の関連会社への営業権サブライセンス売却を 9 億米ドル (約 1,000 億円) で完了したことを発表いたしました。

このことに対する当社の連結業績への影響としては、ウィン・リゾート社が 11 月 7 日付で公表した第 3 四半期決算報告で、これらを営業外収益として計上したため、税引後利益が約 6 億 8 千万米ドルとなっております。同社の決算月は 12 月で当社決算月と 3 ヶ月の差異があることから、これら多額の持分割合相当額 (約 170 億円) についても当社の連結決算上は、下期での計上となります。

この影響額を加味した結果、連結当期純利益は約 294 億円以上 (639%増) の大幅な上方修正を見込んでおります。

## 2. 平成 19 年 3 月期通期の業績予想 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)

### (1) 連結

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	88,100	8,800	4,600
今回予想 (B)	84,700	27,000	34,000
増減額 (B - A)	△3,400	18,200	29,400
増減率 (%)	△3.9%	206.8%	639.1%
(ご参考) 前年度実績 (平成 18 年 3 月期)	48,506	△8,578	△12,713

### (2) 個別

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	—	—	—
今回予想 (B)	80,000	30,000	20,000
増減額 (B - A)	—	—	—
増減率 (%)	—	—	—
(ご参考) 前年度実績 (平成 18 年 3 月期)	29,165	△5,805	△13,891

### (3) 通期業績予想修正の理由

当社は、上半期におけるパチスロ機の販売不振を下半期で挽回すべく営業活動を行っております。下半期以降のパチスロ機市場は、4号機の検定切れが相次ぎ、来年6月末までに推定120万台の4号機が5号機に入替なくてはならない状況にあります。これだけの台数を市場に供給することは、メーカー全体の生産能力を合わせても短期間では不可能であり、数ヶ月のリードタイムが必要と考えられます。加えて、今後発売される4号機のタイトルがほぼなくなり、4号機から4号機への入替が中心だった市場が、4号機から5号機への入替となってくることから、5号機への入替が本格化してくるものと考えております。

このような中、当社は5号機市場をリードし積極的に機械を発売してきた実績を持っております。昨年の10月以降はほぼ1ヶ月に1タイトルのペースで5号機パチスロ機を発売し、通算で13タイトルを販売してまいりました。このことにより「5号機のアルゼ」という市場での認識は定着しつつあると感じております。

今後はこれまで発売してきた5号機を更に飛躍進化させた新型5号機「ゲームパチスロ」が下半期の収益に大きく寄与するものと考えております。

「ゲームパチスロ」は、大当たりを引くまでの平均300~400ゲーム続く通常ゲームだけでなく、大当たり中にもミニゲームが発生し、プレイヤーはミニゲームの結果に応じてポイントを獲得します。獲得したポイント数が多いほど、大当たり終了後に行われるフリーゲーム（コインを減らさずに遊技できるゲーム）を長く楽しむことができ、コインを少しずつ増やしながらつぎの大当たりを狙うことができる仕組みになっているため、プレイヤーは常に期待感を持って遊技することができます。当社はこのような新型5号機「ゲームパチスロ」を市場に投入していくことにより、常に他社5号機に対しての優位性を確保しつつ販売台数を大きく伸ばしていくことができると考えております。新型5号機第1弾となる「サンダーVスペシャル」は、現在3万台を超える勢いで受注を伸ばしており、高収益体制に戻りつつあります。

また、当下半年よりレンタルシステムについて、ソフト単価の引き上げを行ったことと、パチスロの部材共有化による原価の大幅低減を図ったことにより、新型5号機「ゲームパチスロ」が市場への拡大が見込め、大幅な利益率の向上が図れる事で、経常利益および当期純利益は当初予想を上回る予定です。

パチンコ機につきましては、パチスロ5号機の市場シェア拡大を目指すため、当面はパチスロ販売に専念し、その結果を見極めた上で、販売拡大を行ってまいります。

連結業績への影響としては、当社が24.5%の株式を保有する持分法適用関連会社であるウィン・リゾーツ社(NASDAQ: WYNN)がパブリッシング・アンド・ブロードキャスティング社（オーストラリア）へ営業権サブライセンスを9億米ドル(約1,000億円)で売却完了したことに伴い、11月7日付で同社が公表した第3四半期決算報告で、これらを営業外収益として計上したため、税引後利益が約6億8千万米ドルとなっております。当社も連結上、これらの持分割合相当額を約170億円で折込んでおり、当期純利益の大幅な増加が予想されます。

尚、ウィン・リゾーツ社は11月13日にマカオでは初の取締役会を開催し、1株あたり6米ドルの特別配当を11月23日現在の株主に対して12月4日より支払うことを決議しております。これは議長であるスティーブ・ウィン氏から提案があり、副議長である当社会長の岡田が同意し、全会一致で決議がなされました。この支払が実行されることによって、連結キャッシュ・フロー上は約160億円の現金収入が確定いたしました。

#### (4) 個別通期業績予想を開示する理由

当社は、平成18年10月1日付で事業持株会社体制に移行する予定でありました。事業持株会社に移行した場合、グループ各社からの配当収入、利息収入、事務代行収入等のグループ運営収入および業務用ゲーム機の販売、海外事業部門等の、パチスロ・パチンコ事業に該当しない部門からの売上収入等を予定しており、現状との事業形態の大幅な変更が想定されたので、通期業績予想の開示を行うことは誤解を招く恐れがあったため、平成18年5月24日の時点では開示を控えておりました。

しかし、平成18年8月24日付「事業持株会社体制移行方法の見直しについて」でお知らせしたとおり、会社分割を中止し事業持株会社体制への移行方法や時期を見直したことにより、平成19年3月までは概ねパチスロ・パチンコ事業を含む従来どおりの事業形態のままであるため、上記のとおり個別通期業績予想を開示することといたしました。

(注)上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なることがあります。

以上